

筑波大学新聞

第321号

編集責任 筑波大学新聞 編集代表 福原直樹
TEL: 029(853)2040-6699
E-mail: shinbun@un.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所 筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

紙面から

就職課	絶対音感	女子テニス	女子バレー	宿舎を問う	自転車カイドブック
2	5	8	9	10	11
「ツクヤリ」と連携	時代を超える狂言の魅力	牛島がベスト4	好調維持し首位	「10m」満たす部屋なし	筑波大などで配布
3	6,7	三特集			
春日に街灯13本 問題解決の契機なるか					
特集					
一般運営費交付金 総額30億円超の大削減					

研究費削減深刻に

文部科学省から国立大学法人に交付される「一般運営費交付金」が減少している。筑波大学では、交付が始まった平成16年度の約34.8億円から、27年度には約31.4億円に減り、25年度には約14億円の損失を計上した。この結果、研究費削減など影響も大きい。筑波大の永田恭介学長は本紙に、「このままのペースで減少すると、7年後には教育・研究資金がなくなる」と発言、「大学の運営に支障が出るなら、授業料の値上げも検討せざるを得ない」と話した。(新田明夏、森脇慎二社会学類3年、6、7面に関連特集、11面に関連記事)

一般運営費交付金 減少

「授業料値上げも」



永田恭介学長

25年度損失14億円
一般運営費交付金は全国86の国立大学に交付され、各大学が自由に用途を決めるが、交付が始まった16年

度には全大学に97.85億円支給されていたものが、27年度までに約7.65億円削減され、筑波大では11年間で約34億円が削られた。「国の抱える赤字などもあり、削減を食い止めるのは容易ではない」と(永田学長)。

これに加え筑波大では25年度に附属病院で陽子線の機械の故障などで、約14億円

の損失が発生した。これを受け、筑波大は今年度、教員が自由に使える研究費を約16億円から約12億円に削減。今までは研究費以外の部分を節約し研究費の減少を食い止めていたが、永田学長は「研究費削減は」大学運営を継続するためにはやむを得ない判断だったと話す。

一方、一般運営費交付金



山野拓実撮影
松見池にも春が訪れた。新緑を見ながら散歩する新入生。春を楽しむ大学職員の姿も見られる。梅雨前の清々しいひととき……。

市内全域に設置は困難 街灯に頼らない対策を



大澤義明教授

筑波大学周辺の道に街灯が少なく、暗い場所が多い。暗い場所が増加している問題で、つくば市は今年3月、特に被害が多い春日4丁目の筑波技術大学そばの道路に、13本の街灯を設置した。つくば市にはどうして街灯が少なかったのか。今後、どのように解決していけば良いのか。都市計画が専門の大澤義明教授(シンス)に話を聞いた。

つくば市で街灯設置が困難な理由は、まず始めに、つくば市があまりにも広大である上に、住宅の密度が低いこと。全ての地域に街灯を設置する

と莫大な費用がかかる。他にも解決すべき課題があり、街灯ばかりに予算を割くことはできない。では特定の地域のみを設置すれば良いかといえば、特定地域



つくばに街灯を

だけを優先するのは市全体の公平性に反する。また、学園都市建設時に良好な景観を確保しようとして電線を地中に埋め込み、街灯を新たに建てようとした場合に、地面から電線を掘り起こす必要がある。電柱を建てない先進的な都市整備が、後付けの街灯設置にマイナスに働いている。

えられるか。つくば市には緑が多く、街灯建設以外に、まず緑を減らすことも挙げられる。木を伐採すれば明るさは確保できる。ただ、自然保護や景観保護を考えるとむやみに伐採できない。緑量と照度のバランスをどう図るか、今後検討が必要だ。各研究所や大学との連携も挙げられる。現在、研究所が独自に設置している街灯の多くは研究所側、内側を向いている。これを外側を向ければ、周囲を明るくできる。学生がよけ使う道の明るさや安全を確保する方法もある。大学周辺すべての道は困難だが、通学路に指定した道路を重点的に明るくすれば、結果として利用者も増加し、安全性が更に向上する。また、規定の明るさよりも暗い場所にアプローチが建たないようにすれば、犯罪が発生する範囲の拡大を食い止められる。市には限られた予算で最も効果的な方法は何か、中長期的な視点も含めてよく検討してもらいたい。

紫峰会「発展的解消」か

紫峰会は大学から独立した任意団体で、1977年に設立された。収入は年間約1億2000万円。主な財源は保護者や卒業生などが納める会費約6500万円、うち約4800万円を大学公認サークルなどへの助成金支給や年5回発行の紫峰会報の発行などに使っている。

近年、紫峰会では法人化が中心に検討されていた。法人化に伴い、これまで個人名義で行ってきた業務の多くが法人名義で行えるようになり、より円滑で大規模な運営が行えるようになるという。紫峰会によれば、12年1月から大学側と法人化に向けての具体

学生支援への影響に懸念も

来年度にも
だが昨年7月、紫峰会と大学側との会議で、紫峰会を廃止し、その業務を大学が吸収する案が採用され、来年度にも新体制へ移行する予定だ。(田中開二教育学類2年)

的な検討を行っていた。だが昨年7月、紫峰会と大学側との会議で、紫峰会を廃止し、その業務を大学が吸収する案が採用され、来年度にも新体制へ移行する予定だ。

紫峰会は大学から独立した任意団体で、1977年に設立された。収入は年間約1億2000万円。主な財源は保護者や卒業生などが納める会費約6500万円、うち約4800万円を大学公認サークルなどへの助成金支給や年5回発行の紫峰会報の発行などに使っている。

近年、紫峰会では法人化が中心に検討されていた。法人化に伴い、これまで個人名義で行ってきた業務の多くが法人名義で行えるようになり、より円滑で大規模な運営が行えるようになるという。紫峰会によれば、12年1月から大学側と法人化に向けての具体

近・現代史を学ぶことが好きた。日本の政治や国際情勢について興味があり、近・現代史を学ぶことで、その理解を深められる、と思う。大学では国際政治を勉強しようとして、社会学類を選んだ。幅の広い言い方で恐縮だが、入学後、ゼミでの議論の際に日本の近・現代史を知らない学生が多いと感じた。彼らは「高校で日本史を選択しなかったから仕方ない」と口をそろえる。高校の社会科学の先生が、日本史が必修でない今の教育制度を嘆いていたことを思い出す。今年1月に亡くなったヴァイツェッカー元大統領の演説の中に、「過去に目を閉ざす者は、現在にも盲目となる」という有名な言葉がある。虚心拍懐に過去と向き合わなければ、同じ過ちを繰り返してしまうという教訓だ。「必修云々を論じるより、現代を見つめる人間として、歴史を教養として身に付ける必要があると思う。戦後70年の節目を迎え、日本の過去を見直し、日本を今後を定めようとするさまざまな議論が行われている。これらの議論に、歴史の知識を持って耳を傾けなければならぬ。第二次大戦でヴァイツェッカー元大統領は、ドイツ軍の兵士として戦い、同じ部隊で最愛の兄を亡くしている。「歴史の真実を冷静かつ公平に見つめることができるよう、若い人々の助力をしたい」。元大統領は演説でも述べている。この言葉に込めたい。

就職課「ツクキヤリ」と連携 就活支援の充実目指す



筑波大生の就職活動を支援するウェブサイト「ツクキヤリ」のトップページ

合同でイベント開催

筑波大学の就職課と、筑波大生の支援事業を行う株式会社クロノファクトリーが、5月から連携を始めた。就職課は今後、同社が運営する筑波大生向けの就職活動支援サイトへの会員登録を学生に促したり、就活イベントを合同で開催し支援を充実させていく。就職課はこれまで民間企業と連携してきたが、年間を通じて連携するのは初めて。

クロノファクトリーは、動を支援する事業「ツクキヤリ」を行っている。ツクキヤリでは、社員が筑波大生に就職先やエントリーシートを書き方などについて無料でアドバイスするなどの支援をしている。また、ウェブサイトで、内定を得た筑波大生のインタビュー記事などを掲載している。

連携後、就職課はツクキヤリが提携している筑波大生の採用を希望する企業を、学生に積極的に紹介する。ツクキヤリは、東証一部上場企業を含む約500社。これまでも就職課は学生の就職相談に個別に応じたり、OBを紹介するなどの支援を行ってきたが、学生はより内定を得やすくなる。多々の学生に利用してほしい」と話した。

医療従事者を育成 ネットで単位取得



実際に配信される動画を見ながらプログラムの説明を受ける入学者(4月12日、4B棟)

ネット上に配信された授業の動画などで医療従事者のための教育を行う「多職種連携メディカルスタッフ教育プログラム」の開講式が4月12日、筑波大学4B棟で行われ29人が入学した。このプログラムは今年度から茨城県立医療大学(茨城県稲敷郡)と連携して始めるもので、臨床検査技師や診療放射線技師、理学療法士などの医療従事者が対象。受講者の専門ではない医療分野に関する知識を提供し、広い視野を持つ人材を育成することが目的だ。

授業は、主にネット上に配信された動画で行われる。筑波大で撮影された授業の動画を視聴した後、その内容に関するレポートを提出し、単位を取得する。日中は仕事で忙しい人も自宅にいながら勉強できることが魅力だ。

更に、年に4回集中講義が行われ、受講者は筑波大や県立医療大に出向き、より実践的な授業を受ける。集中講義は日曜日に行われるが、参加できない場合でも録音された授業の動画をネット上で見てレポートを提出すれば、出席扱いとなる。2月には外部の講師による公開講座も行う予定だ。

受講期間は1〜2年と短く、修了者には履修証明書が交付される。初年度の今は無料で履修可能だ。

入学した20代後半の診療放射線技師の男性は「自分は放射線科については詳しいが、検査の際、専門外の採血データなどを見ても何が何を表しているのかわからない。専門以外の分野を学び直し、より総合的に検査の結果を診断できるよう頑張りたい」と抱負を語った。(油布知夏=人文文学類3年、写真も)

体重減らずに脂肪肝改善 早歩きでも効果



正田純一教授

正田純一教授(医学医療系)らの研究グループは、1週間で約250分、早歩きなどの簡単な運動を続けると、体重が減らなくても脂肪肝の症状を改善できることを明らかにした。同教授は「患者が諦めずに続けるのが大切」と話している。

脂肪肝は肝臓に脂肪が過剰に蓄積した状態で、過食や運動不足などが原因の生活習慣病。正田教授らは、その中でもアルコールではなく、食へ過ぎや肥満などに由来する脂肪肝がたまる「非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)」を分析。国内の患者数は1000〜2000万人で、症状が悪化するほど肝臓が硬変になる恐れがある。

正田教授らは、筑波大学で行われた減量教室を受講した運動習慣のない肥満の中年男性約250人のデータに着目。減量教室では受講者が、①有酸素運動②食事の量や栄養バランスを調節する「食事療法」③両方を実施の3つのメニューのいずれかを3カ月間行った。受講者全体を、早歩きなどのやや強めの運動の量でグループに分け、統計学的に分析した。

早歩きでも効果

その結果、やや強めの運動を週に250分以上行ったグループは、それ未満のグループに比べ善玉コレステロールや肝臓の炎症を抑える物質が増え、肝臓内の脂肪が平均約25%減少。250分未満のグループに比べ、体重の減少とは関係なく、NAFLDの病状が改善したことが分かった。

正田教授は「運動が苦手でも、普段の歩行を早歩きにするなど意識を少し変えればNAFLDの病状は改善する。今後はより細かなグループに分けて分析し、どんな方法がより効果的か突き止めたい」と語った。(井口彩=社会学類3年)

震災資料 ネットに公開 支援者の「思い」残す

白井哲哉教授(図情メ系)らは、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電

電所の事故で大きな被害を受けた、福島県双葉町の震災時の資料を掲載したホームページ「福島県双葉町の東日本大震災関係資料を将来へ残す」を4月16日に開設した。海外の閲覧者を増やすため、今後は英語版の開設も予定している。

双葉町は、震災時の資料が福島県の中でも多く保存されている市町村の一つ。ホームページには、避難所に届いた千羽鶴19点や寄せ書き27点、地域の祭りで使われた飾りなどの写真が公開されている。また、町役場から見た現在の風景を撮影し、定期的に掲載する。白井教授は「避難所に届いた贈り物をインターネット上に公開することで、双葉町を支援してくれた人の『思い』を残せる。震災後全国に散り散りになった双葉町民に、ホームページを見て故郷のことを思い出してもらいたい」と語った。

白井教授は、文書や記録などの情報を保存・活用するアーカイブスが専門。同教授が双葉町に働きかけ、一昨年6月に筑波大図書館情報メディア系と同町は「震災関係資料の保全及び調査研究に関する覚書」を締結し研究を行ってきた。同町の資料は現在、筑波大学内に保管されている。

「福島県双葉町の東日本大震災関係資料を将来へ残す」ホームページは <http://slis.tsukuba.ac.jp/futaba-archives/> (井口彩)



双葉町に贈られ、現在ホームページで公開されている千羽鶴(左)や寄せ書きされたたこ=白井哲哉教授提供

催事

宿舍祭

第41回やどかり祭(宿舍祭)が5月29(金)〜30(土)に平砂共用棟や平砂テニスコートなどで開催される。29日に前夜祭、30日に本祭が行われる。

当日は各団体による模擬店出店のほか、実行委員会の企画では、浴衣が1番似合う学生を決定する「ゆかたコンテスト」や、各団体が作製した御興のパフォーマンスに加え、3人1組の新入生が学類対抗「クイズ」の正答率を争う「大学生クイズ」や、教科書や衣服などを販売するフリーマーケット「やどかりゆす」などの新企画も予定されている。

問い合わせ = yadokari2015@gmail.com
詳細 = <http://www.sfb.tsukuba.ac.jp/yadokari/> (宿舍祭ホームページ)

ピアノ愛好会コンサート

筑波大学ピアノ愛好会「Summer Concert」が6月13日(土)にはカピオ(つば市竹園)で開催される。曲目は、クラシックピアノ曲を始め、オーケストラ曲のピアノアレンジや、ゲームBGMなど、多種多様。入場は無料。午後0時30分開場、午後1時開演。

問い合わせ = plovers.tsukuba@gmail.com
詳細 = <http://www.sfb.tsukuba.ac.jp/piano/> (ピアノ愛好会ホームページ)

文部科学大臣表彰

平成27年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を、山海教授ら4人に授けられた。表彰は、科学技術の発展に貢献した者に対する功績をたたえるもの。科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、日本の科学技術水準を向上させることが目的だ。

4月15日には、文部科学省講堂で表彰式が行われ、各賞の代表者が表彰を受け

た。筑波大の受賞者は以下の通り。▽科学技術賞(研究部門) 重川秀実教授(数物系)「フュムト秒時間分解トンネル顕微鏡の開拓と応用に関する研究」、牧野昭二教授(シス情系)「音響メディアにおける統計的信号処理の先駆的研究」▽科学技術賞(科学技術振興部門) 山海嘉之教授(シス情系)「サイバニクスによる成果を収めた者の功績をたたえるもの。科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、日本の科学技術水準を向上させることが目的だ。」

春日に街灯13本 問題解決の契機なるか

筑波大学周辺の道に街灯が少なく、暗い場所が多いせいで、事件が増加している問題で、つくば市は今年3月、特に被害が多い春日4丁目の筑波技術大学そばの道路に、13本の街灯を設置した。今年の夏には街灯問題を市と関連機関で話し合う「明ら(いま)ち(へ)り協議会(仮称)」の発足も予定される。本紙は街灯問題の解決を目指し、「昨年11月から1つづつ街灯を」のキャンペーンを開始。関連機関の取り組みや被害者への取材を続けてきた。街灯問題のこれまでの経緯を振り返ると共に、今後路上わいせつなどの犯罪を減らすための課題を探った。
(鈴木拓也) 人文文学類、小野憲司、平嶋健人、山野拓実、社会学類、田中開二(教育学類)

キャンペーン現場ルポがきっかけ

街灯設置の経緯と本紙の取り組みを振り返る。



上=2013年の路上わいせつ発生現場
下=街灯が新設された技大周辺の地図

■わいせつ事件多発/現場ルポがきっかけ
本紙が街灯設置を訴え始めたのは13年11月。きっかけは路上わいせつ事件多発/現場ルポがきっかけ。本紙が街灯設置を訴え始めたのは13年11月。きっかけは路上わいせつ事件多発/現場ルポがきっかけ。本紙が街灯設置を訴え始めたのは13年11月。きっかけは路上わいせつ事件多発/現場ルポがきっかけ。

街灯協議会に期待



東條三郎さん

春日4丁目には街灯が新設されて約1カ月。地域住民は街灯の設置をどう思うか。春日4丁目自治会の東條三郎会長に聞いた。

聞き手・平嶋健人

街灯の設置後、自治会の住民の多くから「明るくなってよかった」と好意的な声が上がっている。自分もカーブ付近が明るくなったおかげで、自動車を安心して運転できるようになった。街灯設置場所に隣接す

る筑波技術大学には弱視の学生も多く通っており、安全に歩ける環境の整備が進んでいると思う。自治会は数年前から技術大前に街灯を設置するよう、市に要望してきた。だが、周辺に電柱がなく電気を引けないことなどを理由に断られてきた。今回は路上わいせつ事件が多発したため、市も動くことになったのだと思う。



街灯が新設された技大前の道路=山野拓実撮影

「学生・20代・男性」新しい街灯に気が付いた。人がけが無く暗かったのが危ないとは思っていた。特に深夜は一人で歩きたく



■キャンペーン開始/課題は「縦割りの行政」
一連のキャンペーン記事では、筑波大やつくば市、地元自治会、関係団体などを取材。▽春日4丁目の自治会がつくば市に対し、街灯設置を過去に要望していたこと▽不審者が現れたことを機に、研究機関が独自に街灯を設置した……などを報じてきた。

特に事件が頻発していた春日4丁目の現場付近を、実際に夜に記者数人で歩いてみた。すると、事件や事故が多発してもおかしくない状況だと分かった。50が先は何も見えないほど暗く、時折通る自転車のライトを頼りにして歩くことも明らかになった。……周辺住民や歩行者も「この付近を通るのは暗くて怖い」と言っている。これを機に、同年12月から「路上わいせつ」のキャンペーンを開始した。

一方、要望があったにも関わらず街灯の設置が進まなかった背景には、市や県、各機関の責任・権限が複雑に入り組んでいる「縦割りの行政」の問題があったことも明らかになった。縦割りの行政の問題を感じた象徴的な出来事がある。本紙記者が市役所に取材に行った時だった。

ある担当課を訪れると「街灯設置は当該課だけでは判断・解決できない」として、その課の担当者から別

の課を紹介されたという。紹介された課を取材すると「また別の課へ……」とたらいまわしにされたのだ。それ以降、本紙では縦割りの行政の解決も訴え続けてきた。

■協議会設置へ/春日4丁目には街灯13本
街灯設置が大きく前進したのは、14年1月。市原健一・つくば市長が本紙の質問状に対し、問題解決のため「明ら(いま)ち(へ)り協議会(仮称)」を設置し、協議会設置には、関係機関を集めることで、縦割りの行政の壁を越え、問題解決を一気に進める狙いがあるとみられる。

「更なる街灯設置を」

【筑波技術大職員・50代・女性】この道路は弱視の人がよく通るので、暗いと犯罪に巻き込まれる危険が高まっている。明ら(いま)ち(へ)り協議会と街灯を設置してほしい。

【会社員・20代・男性】「街灯がほしいな」と思っていた場所が明るくなった。市が暗い場所に重点的に街灯を設置しているの、現状には満足している。

【学生・20代・女性】この通りをよく使うので、街灯があることは確かだ。街灯が少ないと暗い学園西大通り線など、他に建てるべきところがあるのではないか。

【学生・20代・男性】新しい街灯に気が付いた。人がけが無く暗かったのが危ないとは思っていた。特に深夜は一人で歩きたく

本紙は2013年に筑波大学周辺でわいせつ事件が多発したことを受け、「1つづつ街灯を」のキャンペーンを続けてきた。そして一連のキャンペーン報道で感じたのは、新聞の力だった。2011年10月29日付朝日新聞朝刊に興味深い記事がある。それによると、米国では記者のいない「取材空白域」が増えているという。経営不振から地方紙が激減しており、そのような地域では公務員の不祥事や投票率の低下などが起きているというのだ。

地域紙の重要性を感じた
「市役所の取材メモを見ている。ワルドマン氏は「無駄な努力ではないか」という批判的な見方も確かにあった。だが報道が続くにつれ、「大学新聞とは思えない地域全体を見つめた報道に驚いている」「暗い道ではわいせつ事件以外の犯罪も起きる可能性がある。報道を続けるほしい」という意見が寄せられるようになった。本紙の試みは昨年10月、つくば・土浦地域を中心に発行されている日刊紙「常陽新聞」でも紹介されている。

「防犯意識の向上を」

筑波大学は、これまで街灯問題を解決に向けてどんな取り組みを行ってきたのか。学生部の元職員で、街灯問題の解決などに尽力してきた土子昇さん(現・小山工業高等専門学校職員)に話を聞いた。

土子さんは「学生部には常に街灯設置の要望が届いており、それに応えるため、波大や茨城県に加え、約20の研究機関に参加を求め、方針で、今後街灯問題の解決に向け、取り組みが加速する」と期待されている。

記者、ワルドマン氏は、同紙のインタビューでその一例として、地元紙が98年ごろ休刊になったカリフォルニア州の小都市で起きた事件を挙げていた。同氏の言葉を引用したい。

「市の行政官(事務方トップ)は500万円だった自分の年間給料を、十数年かけて段階的に12倍の6400万円まで引き上げた。オバマ大統領の2倍です。驚いたことに、市議会の承認を得ている。警察署長の給与を3600万円まで引き上げるなど幹部や市議をぬかりなく抱き込んだからです」

住民にはこのような行為を告発する頼るべき地元新聞社がなかった。結局、問題を指摘したのは、たまたま隣町を取材していた広域紙だった。

唯一の方法ではないと考えるようになったと語る。土子さんによると、大学周辺の地区は他の地区に比べ犯罪発生率が非常に高い。学生の防犯意識が低く、犯罪者に目をつけられやすいのが原因だという。土子さんは「街灯が新たに設置されても、犯罪者は別の場所を潜む。学生部は学生の安全を第一に動かし、それ以前に『自分の身は自分で守る』という学生の意識が不可欠だ」と発言。「街灯設置は犯罪の抑制には有効だが、学生の防犯意識の向上が何よりの犯罪抑制になる」と今後の問題解決について独自の視点を語った。

記者の目



鈴木拓也

本紙は2013年に筑波大学周辺でわいせつ事件が多発したことを受け、「1つづつ街灯を」のキャンペーンを続けてきた。そして一連のキャンペーン報道で感じたのは、新聞の力だった。2011年10月29日付朝日新聞朝刊に興味深い記事がある。それによると、米国では記者のいない「取材空白域」が増えているという。経営不振から地方紙が激減しており、そのような地域では公務員の不祥事や投票率の低下などが起きているというのだ。

記者の声



新田萌夏

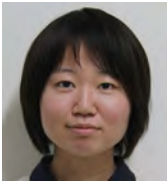
本紙では昨年、筑波大学などの学生や教員などに対し、スマートフォン(スマホ)使用の是非について調査を行った。その結果、学生の約9割が授業中にスマホを使用し、うち7割以上が授業に無関係の用途でスマホを使っていることが判明した。

「スマホいじり」減少へ

学生の声で授業改革を

この結果を踏まえ、学生が授業に積極的に参加する方策を求めて企画「漂流する教室」を3回にわたって調査を行った。この結果を踏まえ、学生が授業に積極的に参加する方策を求めて企画「漂流する教室」を3回にわたって調査を行った。この結果を踏まえ、学生が授業に積極的に参加する方策を求めて企画「漂流する教室」を3回にわたって調査を行った。

この結果を踏まえ、学生が授業に積極的に参加する方策を求めて企画「漂流する教室」を3回にわたって調査を行った。この結果を踏まえ、学生が授業に積極的に参加する方策を求めて企画「漂流する教室」を3回にわたって調査を行った。



油布知夏

筑波大学が教員や学生による社会貢献活動を学内公募し、資金的援助などを提供する「社会貢献プロジェクト」の取り組みを7回にわたって取材してきた。筑波大学の幅広い分野の研究を生かして社会に貢献することを目指し始まったもので、昨年10周年を迎えたが、取材の中

つながり意識し社会貢献 地域に「近しい」大学へ

活動など、さまざま。強い問題意識からの活動もあれば、「自分の好きなことが何かの役に立てば」と始めた活動もある。だが、きっかけはさまざまで、活動する人々が意識していたのは「地域と

この結果を踏まえ、学生が授業に積極的に参加する方策を求めて企画「漂流する教室」を3回にわたって調査を行った。この結果を踏まえ、学生が授業に積極的に参加する方策を求めて企画「漂流する教室」を3回にわたって調査を行った。

この結果を踏まえ、学生が授業に積極的に参加する方策を求めて企画「漂流する教室」を3回にわたって調査を行った。この結果を踏まえ、学生が授業に積極的に参加する方策を求めて企画「漂流する教室」を3回にわたって調査を行った。

反射鏡

女性のやせ過ぎ問題

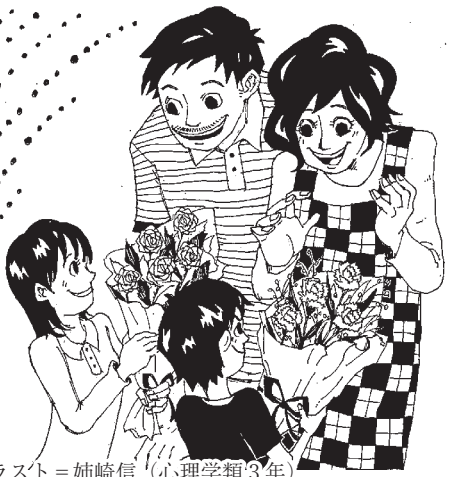
厚生労働省が発表した最新の「国民健康・栄養調査(2013年)」によると、日本の20代女性の1日の平均摂取カロリーは1628kcalで、本来必要なカロリーより300kcal以下低く、更に終戦直後よりも約70kcal低いという。この現状を筑波大学生はどう思っているのか。第二エリア学生食堂で聞いた。(油布知夏II人文学類3年、宇田莉歌II比較文学類1年)

「生きていくのに最低限必要な量は食べるべき」と思う。数値ではなく見た目や気分がよくなるように思っているが、食事制限までしてやせたいとは思わない。過度なダイエットをしている人はやはり「好きな人に振り向いてほしい」奇麗になりたい」という気持ちがあるのだと思う。病気になるほどひどいやり方の場合は止めるべきだと思うが、そうでなければ個人の自由だと思う。

母の日・父の日何をする？

5月10日は母の日、6月21日は父の日。価格・comリサーチによると、今年プレゼントを贈る予定の人の割合は、母の日が58.5%、父の日が49.0%だ。筑波大学生は母の日と父の日、どのように感謝の気持ちを伝えるのだろうか。石の広場(廣岡里穂II人文学類2年、久保貴旺II地球学類3年)

母の日はカーネーションを贈ることがあり、父の日は料理をしたことがある。母の日はカーネーションを贈ることがあり、父の日は料理をしたことがある。母の日はカーネーションを贈ることがあり、父の日は料理をしたことがある。



イラスト=姉崎信(心理学類3年)

母の日は、花を贈るつもり。また、最近母の湯のみの色が落ち始めているから、新しい湯のみを渡そうと思う。父の日は特に何も考えていない。母の日はカーネーションを贈るつもり。また、最近母の湯のみの色が落ち始めているから、新しい湯のみを渡そうと思う。父の日は特に何も考えていない。

湯島聖堂本尊の孔子像 筑波大学教員らが復元



彩色復元された孔子像(4月2日、中央図書館で)

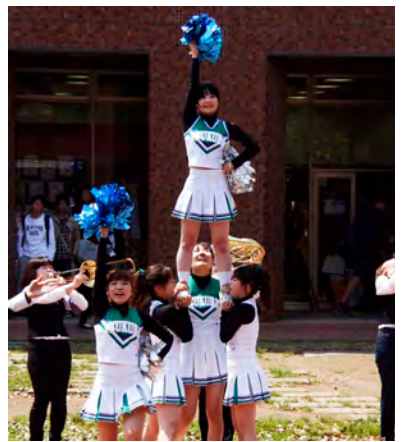
附属図書館で展示

関東大震災で焼失した湯島聖堂本尊(東京都文京区)の孔子像を筑波大学の教員らが彩色、復元し、4月3-12日に筑波大附属中央図書館で一般公開が行われた。

湯島聖堂は元禄時代に江戸幕府が建てた儒学振興の建築物。色のついた孔子像があったと伝わるが、1923年の関東大震災で焼失した。今回復元されたのは、孔子像。孔子が紺や青などの色の礼服や赤黄、緑などの色が付いた冠

を身に付けてどっしりと座る様子表現している。復元事業が開始したのは00年。筑波大の前身の師範学校があった湯島聖堂に飾られていた美術品が中央図書館で発見されたことがきっかけだった。その後「湯島聖堂と筑波大の関わりを世に広めたい」と筑波大の教員が集まり、美術資料や歴史資料を基に聖堂ゆかりの美術品の復元を進めた。

元気な声で応援 「スタンツ」も披露



「スタンツ」を決める部員たち(4月23日、3A棟前で)

筑波大学応援部WINSの新生歓迎ステージが、4月23日に3A棟前で約15分間のステージで、アマフト応援メドレーなど3つの演目を披露した。

WINSは「筑波大学を元気にする」ことを目的に活動しており、筑波大の運動部に所属する学生が中心で、学ランを着て応援を指揮する「リーダー」、笑顔でダンスを披露する「チアリーダー」、音楽で盛り上げる「アンサンブルバンド」の3部に分かれている。

最初の演目は、アマフト部の応援で使用している曲をつなぎ合わせた「アマフト応援メドレー」で、WINSが4年前に行った単独公演で初めて披露したが、今回のステージで再演した。

2つ目の演目は、野球部の応援で使用する定番曲を集めた「野球応援メドレー」で、「狙いうち」など有名な曲も多く含まれていた。また、人を持ち上げる技「スタンツ」では、下の二人が一人を持ち上げるなどの見せ場もあった。最後は、筑波大の宣揚歌「桐の葉」を披露し、部員たちは太鼓の音と共に「フレンドリー」(廣岡里穂「人文学類2年写真も。12面に関連写真」)

曲が披露され、リコーダーの演奏で代わり吹き、迫力ある演奏で観客を驚かせた。また、曲の間に2本のリコーダーを一人で同時に吹く「2本吹き」を披露する場面もあり、会員の高度なテクニックに客席から大きな拍手が起こった。

会場を訪れた中村匠実さん(工学3年)は「以前から同会の演奏が好き。聞き慣れたJポップも、リコーダーで演奏すると優しい響きになる気がする」と話した。(添島香由)

時代を超える狂言の魅力

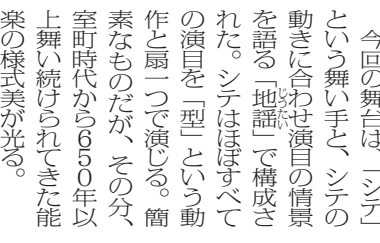
筑波能・狂言研究会の新生歓迎公演が5月7日に学生会館小ホールで開催され、狂言の演目「小舞」の舞を演じる「小舞」能の演目の一部分を演じる「仕舞」など、全11演目が行われた。

今回の舞台は、「シテ」という舞い手と、シテの動きに合わせて演目の情景を語る「地謡」で構成された。シテはほぼすべて演目を「型」という動作と扇一つで演じる。簡素なものだが、その分室町時代から650年以上上舞い続けられてきた能楽の様式美が光る。

小舞「暁」でシテを務めたのは、カナダ人の短期留学生、ネイソン・マイケル。「暁」は、男が女に泊まった翌朝に、互いに別れを惜しむ場面を描いたものだ。空が白み始める中、刀を手に出て行くとする男だけが名残惜しさのあまり、男は女の袂に取り付き、女は男の腰を抱きつく。濃艶な男女の恋愛を題材にしても、謡のリズムは軽やかで爽やかさすら感じる。庶民の日常の中に人間のこっけいさを描き出す狂言の本質が垣間見えた。

「木曾の最後」を題材にした仕舞「巴」では、主人公の女武者・巴を伊藤梨沙(芸専2年)が演じた。能「巴」では、木曾義仲の家臣でありながら、妾でもある巴が没後、義仲の戦死地に幽霊となって現れ、居合わせた旅の僧に義仲の最期と自身の奮戦の様子を語る。仕舞では、義仲と別れ、敵である源義経の軍勢と一対一の戦いが描かれている。激しい語は次第に余韻を残すような寂しげな語調に。戦場に一人残った女武者・巴からは、義仲へ恋慕の情を抱いた一人の女としての寂しさも感じられる。場面に即して謡の調子を変え、情感を語り上げる地謡、そしてなぎなたを使った迫力ある舞。その両者の掛け合いで圧倒された演出だった。

「難しそう」「見ても分からない」と敬遠されがちだが、時代を超えて観客を魅了する能楽の奥深さが感じられた。(田中開「教育学類2年」)



八方井ひ 一所に當るを 木の葉返し



イラスト=油布知夏

と、一気に四方八方をなぎなたで切り結び、獅子奮迅の戦いを見せる。その戦いぶりに敵はあきらめ、去っていく。激しい語は次第に余韻を残すような寂しげな語調に。戦場に一人残った女武者・巴からは、義仲へ恋慕の情を抱いた一人の女としての寂しさも感じられる。場面に即して謡の調子を変え、情感を語り上げる地謡、そしてなぎなたを使った迫力ある舞。その両者の掛け合いで圧倒された演出だった。



「リコシェ」が展示した洋服(5月8日、学生会館総合交流会館で)

自作の洋服展示 11点が会場彩る

ファッションサークルを主催する「ネオアジア」など4つのテーマで構成された展示「WELCOME EXHIBITION」が5月7-9日に学生会館の総合交流会館で行われた。「RICOCHET」は「水切り遊び」などの意味を持つフランス語。水切り遊びのような弾み気持で、子ども心を忘れずにファッションを楽しむことをコンセプトに、服のデザインや製作を行っている。(アートの)

原点

現在では情報法を研究しているが、「研究者になりたい」という強い思いがあったわけではない。自分のこれまでを振り返ってみると、人の勧めがきっかけになることがあった。だが研究者になって、ようやく自分の進むべき道が見えてきた。

大学在学中に司法試験に合格。卒業後は法律事務所(弁護士として働いた後、企業の法務部に移った。そのころ新しく個人情報保護法が整備され、顧客からの個人情報に関する苦情に対応していた。だが会社は弁護士として自分を雇ったわけではなく、自分が何を求められているのかわからなかった。「自分はここまでい

何気ない一言が背中押した

「海外では個人情報保護を確保するためにどのような法制度がなされているか」「それぞれの中で法律の内容はどの異なるか」など他国との比較が必要だ。その情報を得るために、多くの研究者は海外の専門家に聞くなどして世界の



石井夏生利 准教授 (新領域法学) 図情系・准教授。中央大大学院修了。情報セキュリティ学大学院准教授などを経て2010年より現職。著書に「個人情報保護法の現在と未来 世界的潮流と日本の将来像(領事書房)」など。

原点 GEN-TEN

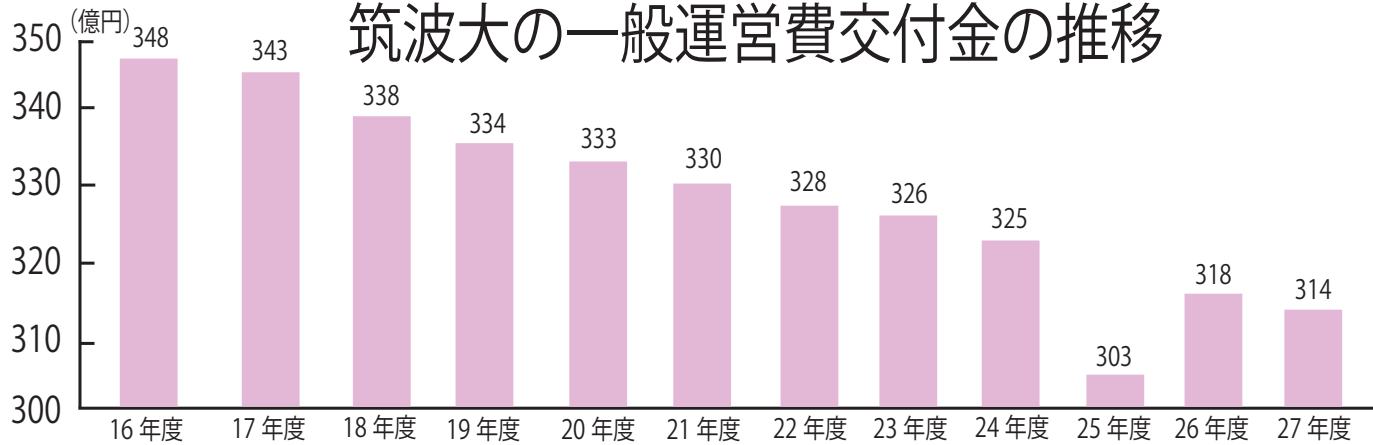
法的情勢を学び、国内でそれを利に生かせる仕事はないかと悩んでいた。 そんな時、会社の同僚から「石井さんは大学院が向いていそう」と言われた。同僚にとっては、何気ない一言だったかもしれない。だが、その一言が悩んでいた自分の背中を押した。より専門的に学ぶことを決意し、社会人大学院に進学した。「今後社会での重要性が増すのでは」と考え、仕事で関わったことがある個人情報保護法を研究し、博士号を取った。大学院卒業後は、そのまま研究者の道に進み、2010年に筑波大学に赴任した。

一般運営費交付金

総額 30 億円超の大削減

運営の効率化迫られる

平成16年度に国立大学が法人化されてから、筑波大学をはじめ国立大学が国から交付される「一般運営費交付金」は毎年削減されてきた。筑波大で交付されている一般運営費交付金の削減額は16年度から27年度の11年間で約34億円にも上り、教職員は研究費などで大きな影響を受けているという。限られた予算の中で筑波大は今後どのように大学を運営していくべきなのか。また、学生への支援に変化はあるのか。筑波大財務部財務企画課などの関係者や、予算削減の影響を受けた教員などに取材し、大学予算の現状と今後の展望を聞いた。(新田明夏、森脇慎二、社会学類 田中開二、教育学類 添島香苗、生物学類 齋藤優斗、社会学類)



一般運営費交付金の推移
平成16年度から交付が始まった一般運営費交付金は、前年度交付された一般運営費交付金と比べて、年間1.3%ずつ削減されていく。22年度からは附属病院がある大学は年間1.3%ずつ削減されている。その結果、筑波大では交付が始まった16年度は約348億円だったものが、年々減少した。これに加え、平成25年度は、国が東日本大震災の復興財源に回すためなどから、前年度よりも減少率が大きく、約30.3億円となった。26年度はその反動で増額したが、27年度には約314億円に減少した。

2年連続での損失
一般運営費交付金が削減される中、筑波大は24年度と25年度の2年連続で、それぞれ5億7900万円と13億6800万円の損失を出している。財務部担当者は24年度の損失の要因に、2013年から本格的に利用を開始した附属病院の新棟「けやき棟」の影響を挙げる。「けやき棟」が12月26日に開院したことに伴う初期費用を計上したことなどが原因だという。

学生への支援は「変わりゆく」
予算が減少したことで、学生に影響はあるのか。永田恭介学長は本紙取材に対して、予算が削減されても学生に対する支援は変わらないうと明言したが、その現状を調べた。

附属図書館も予算削減
筑波大では経済的に困窮している学生のために、授業料の免除を行っている。免除には、全額免除、半額免除、3分の1免除の3種類がある。しかし24年度の場合、資金不足などから全額免除基準を満たした学生1800人のうち、800人を半額免除、半額免除基準を満たした学生の1部を3分の1免除にしていた。

また、25年度の損失の主な要因は附属病院で故障した陽子線治療機の修理費など、想定外の支出が増えたことや、設備の先行投資を行ったことなどが理由だ。しかし、「大学の経営上必要なことは」(財務部担当)と話す。附属病院では、設備の更新を減らし、手術の受け入れを増やして、経営の効率化を進めている。

免除の拡充を図っている。25年度までは学内循環バスは、今年度から雑誌23タイトル、東京新聞や日刊スポーツなど新聞4紙の購読中止を決めた。円安で外国雑誌の価格が高騰し、新聞や雑誌の予算が既定の額を超えたため、学内の他の図書館と重複して購入している資料数を減らし対応した結果だ。東京新聞は医学図書館で、日刊スポーツは体芸図書館で閲覧できる。

一方、学生の図書のリクエストに配分する予算は毎年同額を維持しているほか、2万5000タイトルを超える電子ジャーナルを揃えるなど、図書館サービスの充実を図っている。情報管理課の担当者は「予算が削減されている中でも、図書館サービスの向上に対する学生の要望は今後とも減らない」と話した。

記者の目
一般運営費交付金の削減を受け、筑波大は「4本の柱」(永田恭介学長)を立てて資産の獲得を試みているという。4本の柱とは、①産学連携の充実②教育研究推進事業の拡充③ベンチャー企業の創出④筑波大学校友会カード加入率の上昇の4つを試みた。

「4本の柱」に期待
まずは現状考えるべき
うち、②の教育研究推進事業の拡充とは、無料で大規模な行事を開催し、学費の削減を有料化し、大学の運営経費に加える試みだ。例えば現在、大学はプロスポーツ選手のリハビリを無料でやっているが、外部業者との契約を打ち切ること、経費の削減にも



けやき棟 (2013年撮影)

予算不足により、大学教員への研究費は削減される傾向にあるが、研究者への影響はどのようなものがあるのだろうか。植物の光合成のしくみを研究する小林正美准教授(数物系)と、花粉症の治療法などを研究する三浦謙治准教授(生環系)に話を聞いた。(聞き手・添島香苗)

研究費削減は致命的
小林正美准教授の話
とって致命的。基礎研究は、研究者の「自然の摂理を知りたい」という思いで行っており、何に役に立つかはすぐには分からないことが多い。その

産学連携の評価検討を
三浦謙治准教授の話
大学は、ここ20~30年ほど基礎研究を中心に進めており、研究者もまた基礎研究に偏っていると思われる。健全な科学の発展には、基礎研究と応

ある技術を製品などに応用して世に出すことが目的のため、論文を書きづらい。それならば、基礎研究を進めて論文を多く書くことを考えるのも当然だ。現在も、産学連携の有無も研究者の評価対象の一つだが、どのような評価方法が適切なのかも検討すべきだ。

れた緑色蛍光タンパク質が、後に細胞学研究に欠かせない存在になったように、基礎研究は20、30年後に芽が出れば早い方で、他分野で予想もなかった用途に使われたりするところが多い。一見役に立ちそうに無いものほど実は重要なということ。文系・理系を問わず多々ある。そんな芽を摘まぬようにしたい。

迫られる改革



近年、ヒートアイランド現象やゲリラ豪雨などの異常気象が問題となっている。日下博幸准教授(生環系)は、これらの実態を把握し、対策のための研究を進めている。日下准教授は1999年に「都市キャンパノピーモデル」を開発。これは地球の大気をルービックキューブのようにブロックごとにかけて気象を予測する際、各ブロックで自動車やエアコンの使用などで生じる熱や建物が気象に与える影響を計算するプログラムだ。同モデルが開発されたことで、都市の気象予測の精

筑波大学をはじめ、国立大学法人は一般運営費交付金を含む運営費交付金の削減などの予算問題に直面している。今後国立大学はどのように運営されるべきなのか。大学の適切な運営方法を研究する筑波大学・大学研究センター長の徳永保教授に話を聞いた。



徳永保教授

運営費交付金の削減はやるを得ない。国の赤字が膨らみ国家予算が限られている中、少子高齢化の影響で社会保障費を増やす必要があるからだ。今後も運営費交付金に頼りたままでは、大学の運営は立ち行かなくなるだろう。

「強み生かした運営を」

14年前に都市キャンパノピーモデルの論文を、大気境界層気象学の分野で最も権威ある学術雑誌「Boundary-Layer Meteorology」に発表した当時、都市が気候に及ぼす影響は小さいと考えられており、「そんな程度が大きく高まった。引用されるが増え、2013年、14年には、『Boundary-Layer Meteorology』で過去に発表されたすべての論文の中で最も多く引用された。同准教授は「都市に特有の気象は考えなくてはならない問題になる」と思っていたと語る。

異常気象の実態探る

10年先を見据えた研究

なものを作っても仕方ない」と言われた(日下准教授)。だがヒートアイランド現象など、都市で発生する異常気象が社会問題になると、多くの研究者が同准教授の研究に注目し始めた。10年ほど前から論文が

育研究事業が求められ、その事業が高評価であれば、運営費交付金が重点的に配分される。この制度は早くから年度には開始される。筑波大はすべての分野で世界基準の研究に取り組んできた実績があるため、①に分類されると考えられている。現在、文部科学省などは国立大学を①すべての分野で世界最高水準の教育・研究をする大学②特定の分野で世界基準の教育・研究をする大学③地域貢献と特定分野の教育・研究に力をいれる大学の3つに分類する。各大学は3グループから一つを選び、必要があり、選択したグループの目的に沿った教

育研究事業が求められ、その事業が高評価であれば、運営費交付金が重点的に配分される。この制度は早くから年度には開始される。筑波大はすべての分野で世界基準の研究に取り組んできた実績があるため、①に分類されると考えられている。現在、文部科学省などは国立大学を①すべての分野で世界最高水準の教育・研究をする大学②特定の分野で世界基準の教育・研究をする大学③地域貢献と特定分野の教育・研究に力をいれる大学の3つに分類する。各大学は3グループから一つを選び、必要があり、選択したグループの目的に沿った教

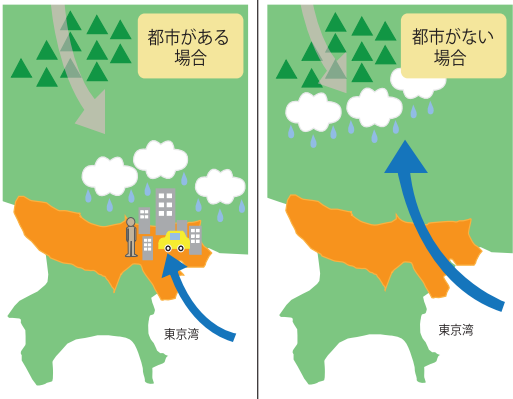


世界初のサイボーグ型ロボット「ロボットスーツ HAL AN」=サイバードイン社提供

「HAL」の開発や、油を流す装置の研究など、医学・生物学をはじめとした「サイエンス分野」も筑波大の強みの一つだ。

世界初の治療ロボット「HAL」の開発や、油を流す装置の研究など、医学・生物学をはじめとした「サイエンス分野」も筑波大の強みの一つだ。

「都市の発達が集団豪雨を増やしている」というのが通説だったが、定か



都市がある場合とない場合で雨雲が発生しやすい地域が変わる

「何もしいない大学生活は、まずいな」という焦燥感もあり、いつもモヤモヤしていたと記



千葉県柏市市長 秋山浩保さん

「息抜き」から生まれた好奇心 出会いや気づきを大切に

「息抜き」から生まれた好奇心 出会いや気づきを大切に

6年前に千葉県柏市の市長に就任しました。行政組織のマネジメントを行う仕事です。行政組織は、一般的に組織パフォーマンスが低いと言われ、その理由に組織原

◆ジャコウアゲハの幼虫◆



撮影地=一ノ矢学生宿舎

これからのシーズン、黒チョウ。古来から香料や医薬品として珍重された麝香のよな香りを出すことからこの名が付いた。オスもメスも体色が少し違って、オスはメスに比べて黒が濃い。



毒が含まれていて、これにより鳥から襲われるのを防いでいる。この毒は、彼らの幼虫時代に由来するものだ。彼らはワマンズクサという毒草を食べ、その毒を体内に蓄えるのだ。黒い優雅なチョウが飛び交っているのを見かけたら、しばらく眺めておくと、彼らが卵を産むために毒草を物色しているところも観察できるかもしれない。

(写真・文)今田創、比文3年、野生動物研究会)

関東学生テニストーナメント 牛島がベスト4



バックハンドを打つ牛島 (5月9日、関東学生テニストーナメントの準決勝で) = 岡田優太 (社会学類1年) 撮影

強烈なフォアハンド生かす

【有明テニスの森公園(東京都江東区)で田中開教育学類2年】関東学生テニストーナメント(春関)が4月18日から5月10日にかけて行われ、女子シングルスで牛島里咲(体専1年)がベスト4に入った。牛島は高校時代にインターハイで優勝するなど、将来を嘱望される選手。持ち味の強烈なフォアハンドを生かし、全試合ストレート勝ちで準決勝まで勝ち進んだが、小林夏実(慶應義塾大3年)に敗れた。

牛島は第1セット、小林のサービスゲームを先取のサーブで打ち合おう中、互いに激しく打ち合う中、牛島はミスの少ない堅実なプレーで3-1とリードした。だが第5ゲームに入る所持味のフォアハンドが乱れ、立て続けに失点。その後、フォアハンドの不調を修正できずタイブレークにもつれ込むと、6-7で第1セットを落とした。続く第2セット、フォアハンドの不調は続いたが、緩急を付けたラリーを展開し、3-3まで粘った。だが後半は失速し、4-6で第2セットも落とし、決勝進出を逃した。牛島は「フォアハンドの不調を最後まで修正できず、いら立ってしまった。相手の小林選手には2週間前に勝っており、(実力的には)勝てない相手ではなかった」と悔しさをにじませた。

記者の目

2013年のインターハイを制するなど、高校時代から注目を浴びていた牛島里咲(体専1年)。決勝進出こそ逃したが、そのプレーは今後の躍進を期待させるものだった。自身の強みを「ベースライン(サーブを打つライン)際から安定して強い打球を打ち込み、序盤から積極的に攻めて主導権を握るテニス」と話す。大学入学後初の大会となった今回、準決勝では得意のフォアハンドが精彩を欠いたこともあり、流れに乗れず敗退したが、それまではすべての試合でストレート勝ち。ラケットを常に両手で持つ独特のスタイルで存分に存在感を放った。

夏に向け粘り強さ強化を

2013年のインターハイを制するなど、高校時代から注目を浴びていた牛島里咲(体専1年)。決勝進出こそ逃したが、そのプレーは今後の躍進を期待させるものだった。自身の強みを「ベースライン(サーブを打つライン)際から安定して強い打球を打ち込み、序盤から積極的に攻めて主導権を握るテニス」と話す。大学入学後初の大会となった今回、準決勝では得意のフォアハンドが精彩を欠いたこともあり、流れに乗れず敗退したが、それまではすべての試合でストレート勝ち。ラケットを常に両手で持つ独特のスタイルで存分に存在感を放った。

関東大学 2部リーグ

サッカー



若杉は右足を振りぬぎ、3点目を決めた (5月6日、拓殖大戦で)

6勝2敗で3位

【筑波大第一サッカー場】筑波大第一サッカー場の関東大学リーグが4月4日に開幕した。史上初めて2部リーグを戦っている筑波大は5月14日現在、第8節を終えて6勝2敗、勝ち点18で12チーム中3位に付いている。5月6日の拓殖大戦では、小井土亮監督(体育系助教)の交代策が的中、4-0で快勝した。前半、筑波大はチャンスを作れず、0-0で折り返す。だが後半20分に小井土監督が若杉拓哉(体専4年)と野口航(同2年)をピッチに送り込むと、試合の流れが一気に筑波大に傾く。25分、ペナルティエリア右で戸嶋祥郎(同2年)が

2年連続準優勝 満田 優秀選手賞に

バスケット



スリーポイントシュートを狙う満田 (5月10日、関東大学選手権大会の東海大戦で)

関東大学選手権

【国立代々木第二体育館(東京都渋谷区)で大西美】両写真も、12面に関連写真。関東大学選手権が4月25日から5月10日に行われ、25日から5月10日に行われ、優秀選手賞に満田丈太郎(体専3年)、敢闘賞には馬場雄大(同2年)が選ばれた。試合序盤は互いに譲らぬ試合展開となった。筑波大は小松雅輝(同4年)や杉浦浩成(同2年)が果敢に攻め、速攻で得点を重ねる。東海大に対抗。14-15で第一ピリオドを終える。第二ピリオドに入ると東海大に立て続けにシュートを決められ、点差は二桁に。だがタイムアウトを取ると筑波大は勢いを取り戻した。小原翼(同3年)などが得点を奪い、一時は3点差まで追いついた。だがその後は再び東海大に圧倒された。前半終了時には27-36まで点差をを広げられると、第三ピリオドでは最大23点差に。杉浦の3

6勝4敗で4位 打線不調続く

野球



先発し好投した大場 (5月9日、拓殖大戦で) = 前名裕一 (社会学類1年) 撮影

首都大学リーグ

【川口市営球場(埼玉県川口市)で森脇慎】8チームが2回戦総当たりで戦う。昨年の秋季リーグで優勝まであと一歩に迫った筑波大だが、今季は5月14日現在、6勝4敗で4位となっている。5月9日に川口市営球場(埼玉県川口市)で行われた城西大戦では、先制したものの九回二死から追いつかれ、更に延長10回に右前

記録ファイル

◆柔道 全日本選抜体重別選手権(4月4-5日、福岡国際センター)【男子】81kg級 永瀬貴規(体専4年) 優勝【女子】52kg級 内尾真子(同2年) 3位
◆バドミントン 関東大学春季リーグ戦(4月25日)から5月4日、日本体育大学健志台キャンパスほか【女子】団体 1部優勝【男子】団体 2部3位
◆陸上 日本選抜陸上和歌山大会(4月25-26日、紀三井寺公園陸上競技場)【男子】ハンマー投げ 保坂雄志郎(体専2年) 67.65m
2位、学生歴代3位【女子】ハンマー投げ 勝山眸美(体専3年) 60.37m 3位

春季関東大学女子1部リーグ 好調維持し首位



得点を決める筑波大選手 (4月18日、日本女子体育大戦で) = 新田萌夏撮影

ブロックで得点重ねる

【青山学院記念館(東京都渋谷区)で林健太郎(社会学類3年) 関東の10大学で争われる、春季関東大学女子1部リーグが4月12日から開催されている。昨年の春季・秋季リーグとも3位だった筑波大は5月14日現在、好調を維持し5勝0敗で首位に立っている。



4月18日に行われた日本女子体育大戦では、全日本

代表の井上愛里沙(体専2年)が次々にアタックを決めるなどの活躍もあり、3-1で勝利した。第1、2セットは、チームの強みである高さを生かしたブロックなどで得点を重ね、それぞれ26-24、25-21で連取した。

だが、第3セットはブロックを相手にかわされアタックを決められるなど苦戦。また「攻守の連携がうまく機能していなかった」(中西康己監督)と体育系・准教授)こともあり、スパイクのミスなどからも失点を重ね、21-25で奪われた。だが第4セットは圧倒。主将の帯川きよ(同4年)のブロックを中心に次々と得点を決め、25-13と大差をつけた。

小原らのチームが優勝 2位と24秒差つける



【戸田競艇場(埼玉県戸田市)で田中開(筑波大)が主催するボート大会、5大学レガッタが4月29日に行われ、女子舵手付きオドルブルで小原有賀(体専2年)、木村光里(同3年)、小林愛実(同3年)のチームが優勝した。



中垣音彩(心理学類1年)撮影
オールを漕ぐ小原(左)と棚橋(4月29日、5大学レガッタで)

なるほか、選手登録外の舵手が乗って争われた。スタート直後の加速で頭一つ抜け出した筑波大チームが序盤から独走。1000メートル地点で2位と約9秒、1500メートル地点では約17秒の差をつけ、その後も相手を寄せ付けず、2位の一橋大チームに約24秒差の7分54秒87で優勝を果たした。小原は「連携が上手い、できない事もあり、決して満足できるタイムではなかったが(棚橋を加えた)新しいチームで優勝できてよかった」と振り返った。

春季トーナメント 布施が4位入賞



【東京武道館(東京都足立区)で新田萌夏(関東学)が主催する春季トーナメントの決勝大会が、5月6日に行われ、男子個人戦に布施智瑛(地球3年)が出場。8射のうち6射を的中させ、15人中4位に入賞した。

また団体戦では、男女共に一回戦で敗退した。個人戦に出場した布施は、安定した姿勢で矢を放ち、一立目は4射すべてを的中し、チームの合計的中数は13で、16の東海大に及ばなかった。女子の部では、菅谷由美(体専3年)、斎藤詩乃(同2年)、今林史佳(同3年)のチームが出場し、計24射13中で予選を通過した。一回戦の相手は文教大。筑波大は3人全員が2回ずつ、計6射を的中させた。だが文教大はそれを上回り、3人のうち2人が「皆中」を決め、的中数は9。二回戦進出を逃した。

男子主将の池田は「練習ではうまくいっても本番で失敗してしまうことがある。今後は試合でも実力が発揮できるようにしたい」と話した。

井上 個人総合12位 負傷による離脱響く

体操



【国立代々木第一体育館(東京都渋谷区)で森脇慎一(日本一を争う)日本選手権



平均台で高い跳躍を決める井上 (4月25日、日本選手権の決勝で)

日本選手権

(天皇杯)が、4月24-26日に行われた。女子の部では、昨年の世界選手権日本代表の井上和佳奈(体専2年)が決勝に進出。1月に右ひじを脱臼した影響もあり、昨年からの順位を8つ下げ、12位に終わった。男子では宮地秀亨(同3年)が22位、星野力維(同3年)が24位に入った。

井上は第一種目の段違い平行棒から安定感のある演技を披露し、13・400点を記録。続く第二種目の平均台、第三種目のゆか、最終種目の跳馬でも大きなミスなくまとめ、すべての種目で13点をマークし、総合で53・850点を獲得した。だが優勝した寺本明日

「精一杯出し切った」

香(中大2年)はすべてで14点台の高得点を記録したが、今できる精一杯は出したばかりだった。復帰からわずか1カ月だったこともあり、技の難度を下げた。

この日の体の調子は「一番いい時に比べ、50%くらい」。決して本調子ではなかったが、「体操を楽しむこと、笑ってやること」を心がけた。待ち時間も演技の後、常に笑顔。「気持ちの面ではとにかく元気だった。体の不調もカバー

「ベストの演技ではなかったが、今できる精一杯は出した。1カ月でここまで仕上げられたのは自信になる。」

だが満足しているわけではない。今後は怪我の影響で下げていた技の難度を、再び高くする予定だ。井上は「もっと自分はいい演技ができるはず。自分の理想に近づけるように、一日一日しっかりと練習に打ち込みたい」と語った。(森脇慎一)



笑顔が浮かぶ。中学に上がるその思いが爆発する。反抗期だったことや指導者との不仲もあり、練習に身が入らなくなった。「もう体操を辞めたい」。思いは日に日に強くなり、3

と、心に穴が空いたように感じた。「今は苦しいけど、続けた方がいい」と数日後に復帰、改めて体操と向き合った。

「気持ちに変化が訪れたのは高校2年の春。初めての海外遠征となったその日から練習はガラリと変化し、自分の欠点を以前よりも深く分析するようになった。自分の理想に近づけるよう、真剣に練習に取り組んでいる。」



2014年体操世界選手権 日本代表

井上和佳奈(体専2年)

筑波大に入学。10月の世界選手権(イギリス・グラスゴー)で、来年のリオデジャネイロ五輪を目指し、体操を楽しむ気持ちを忘れず、挑戦し続ける。(齋藤優斗(社会学類2年)、写真・森脇慎一(社会学類3年))

楽しむ気持ち忘れず挑戦

年の時には、指導者の厳しい言葉が最後の引き金を引き、体操を辞める決断をした。だが体操をしていない

つくばフェスティバル 「科学のまちつくば」をPR



音読学習の支援に用いるぬいぐるみ型ロボットが人気だった(5月10日、つくばカピオで)

つくば市が主催する「つくばフェスティバル2015」がつくば駅周辺で行われた。このイベントは「科学のまちつくば」をPRすることや、国際交流の場を提供し多くの文化を知ってもらうことが目的で、今年で27回目の開催。子どもたちを対象とした体験型のイベントや、世界各国の料理・物産を楽しめる「国際交流通り」などさまざまな催しが開かれ、駅周辺は活気に包まれた。(深作歩美II生物資源学類2年、写真も。12面に関連写真)

セクウェイ体験
大清水公園(つくば市竹園)で行われた電動立ち乗り二輪車「セクウェイ」の試乗体験は予約が殺到する、大盛況となった。参加者はヘルメット着用の上、インストラクターの資格を持つ担当者が付き添いで乗り方を指導するなか

安全面にも配慮。インストラクターの横井知さん(社工専攻1年)は「最初は怖がっていても、最後に笑顔になるのを見るとうれしい」と話す。

お医者さん体験
医師の仕事を知りたくて体験する「ぬいぐるみのお医者さん」お医者さん体験は、地域の子どもたちに医療や健康的な生活をぬいぐるみを使って指導する筑波大のサークル「つくばぬいぐるみ病院」が主催。子どもたちは白衣に身を包み、本物の注射器や聴診器を使って診察し、医者になりきっていた。未就学児はぬいぐるみを、小学生以上はつくばぬいぐるみ病院の学生を診察した。代表を務めた岩橋優花さん(医療

異文化交流
筑波大のアフリカからの留学生は「エンジョイ・ザ・ワールド」で、鮮やかな色の民族衣装をつけ、アフリカのダンスを披露。代表者のヌーク・イケンナ・スティーヴさん(社会学3年)は「自分たちの文化を紹介するために出展した。アフリカに来たことがない人に自分たちの文化に触れてもらえて良かった」と話した。

筑波大学発 未来のエンターテインメント
つくばカピオ(つくば市竹園)では「筑波大学発

子どもたちが実験楽しむ
科学の魅力を発信
子どもたちに科学の魅力や最新の研究を紹介するイベント「筑波大学科学技術週間キッズ・ユニバーシティ」が4月18日に行われた。筑波大の各所で特別授業や展示が開催され、多く



絵が消える実験を披露する小林准教授(4月18日、総合研究棟Aで)

絵が消える実験を披露する小林准教授(4月18日、総合研究棟Aで)
小中高生、賑わった。総合研究棟Aで行われた体験授業「面白不思議科学実験工作隊」には、約40人の小中学生とその家族が参加。主催した小林正美准教授(数物系)が、身近な道

あぶって消した。続けて液体筆で紙を冷やすと絵が再び出現。子どもたちから大きな歓声が上がった。他にも、携帯電話でミニカーを操縦したり、卵を割らずに搾汁させてプリンを作るなど、さまざまな実験を行った。授業終了後には、多くの参加者が公演で紹介された玩具で遊んだり、実験を体験して楽しんだ。水戸市から訪れた小学生の男の子は「特に絵が消か

宿舎を 問う

筑波大学学生宿舎の部屋の一部分の面積を測定したところ、大学の公式パンフレットに記載されていた「10㎡」とは違い、実際の壁内面積がその7〜8割程度だった問題を受け、本紙は4月、宿舎面積の総合的な調査を行った。今回測定した35部屋で最小は壁内面積が7.12㎡、最大は8.93㎡だったが、これらの部屋もパンフレットで「10㎡」と記載されていた。ただ今回の再調査で各部屋の面積は全て7㎡を超えていたこともわかった。

「10㎡」満たす部屋なし

このほか、7.46、7.48、7.52、7.54、7.55、7.65、7.67、7.74、7.97㎡……などのばらつきがあり、最も広がったのは春日2号棟202号室の8.93㎡だった。だが、いずれの部屋も、大学の公式パンフレット

が記載する「10㎡」よりも2.88〜1.07㎡狭かった。つくば市の現行条例では「共同住宅の床面積は7㎡以上と定められているが、今回の測定ではこの基準にかなり近い部屋が複数あった。つくば市役所によると通常、条例での「床面積」は洗面台や柱、風呂など、事実上、居住が不可能な部分も含める。これまで本紙が行った測定では、洗面台などを除いた居住可能な部分の面積を調べていた。(添島香苗II生物学類3年)

宿舎	棟	号室	面積(㎡)	宿舎	棟	号室	面積(㎡)
平砂	1	101	7.54	一の矢	4	102	7.97
		104	8.10			103	8.61
		103	8.05			201	7.65
	3	101	7.46		5	101	7.55
		102	7.12			103	8.08
		103	7.65			101	7.52
	5	101	8.51		8	103	8.56
		101	8.59			109	8.11
		102	7.74			20	102
追越	12	102	8.75	春日	20	101	7.77
		106	7.74			102	8.80
	18	101	8.42		22	201	8.14
		101	8.42			101	8.63
	一の矢	1	201		7.48	1	201
202			7.54	101	8.84		
119			8.01	202	8.93		

今回の宿舎面積の総合調査結果。棟・部屋番号は学生生活課提供の図面を参照した

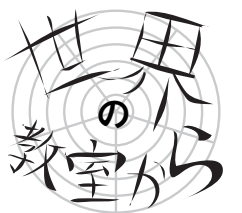
宿舎面積の総合調査実施

た部屋で、各棟で同課から提供された図面のうち異なる形の部屋を選んだ。学生生活課と管理事務所の許可を得て空き部屋に入り、メジャーで部屋面積を測った。

前号で報じた筑波大宿舎の部屋面積の測定記事で、一部の部屋が「共同住宅の床面積は7㎡以上」としたつくば市の条例に違反するとしてしましたが、今回の追加調査で誤り

条文の「床面積」には備え付けの洗面台の面積は含まれないと解釈したのでその原因です。追加調査で、宿舎の部屋面積は洗面台を含めると最小のもので壁内の面積が同条例をわずかに上回っていました。前号の「現行条例に違反」の部屋があるという表現は誤りで、訂正いたします。

訂正とおわび



世界の教室から マレーシアアトラ大学 (マレーシア) 細川花栄

乾季と雨季がある熱帯雨林気候の土地に位置し、多くの生物多様性を持つマレーシア。「ここで学ぶべし」という思いからマレーシアへの留学を決意しました。



現地の学生と笑顔を見せる細川さん(中央)(4月、マレーシアで) = 本人提供

多民族国家の文化を知る

私の留学先であるマレーシアアトラ大学(UPM)はクアラルンプール郊外に位置する大

と頷きます。だから、日本では他人からの目を気にして生活していた私も、ここでは何も気にせず生活できます。多民族国家だからこそ言語も幅広く、公用語のマレーシア語に加え、華人は中国の役人が用いる「マンダリン」を、インド人はタミル語を話します。また英語教育も発達していて、ここでは多くの言語を学べます。留学は自身自身を見直し、成長させる大きなチャンスだと思います。私はマレーシアで、多くの人々とのつながりから宗教や言語、生活様式の違いを感じ刺激を受けています。ここでは生活は私にとって貴重な経験であり、自分の価値観や考え方を大きく変えてくれると信じています。(生物学類3年)

自転車ガイドブック発行 筑波大などで配布



「つくばの自転車ガイドブック」を持つ大竹さん(5月3日、芸術学系棟で)

「自分の住む地域楽しんで」

自転車利用の多い筑波大。筑波大生がつくば市学生向けに、自転車と安全につくば市を楽しくするための発行部数は2000部。つくば市の自転車ガイドブックが4月に発行され、配布されている。

ガイドブックではつくば市の地図に加え、自転車のメンテナンスの方法や市内の自転車店の場所なども掲載。筑波大生が描いたイラストや撮影した写真が豊富で、学生が感じた印象が読者にそのまま伝わるよう工夫されている。

特にこだわったのが安全に関する項目だ。つくば市では以前から無灯火運転や歩道での走行など、大学生の自転車マナーの悪さが問題になっていた。製作チームは「学生がルールを守らないのは、ルールを知らないからではないかと考え、学生の目線から、学生にマナーを伝えるように促したい」と、最低限のルールやマナーをガイドブックに盛り込んだ。

三井住友銀行 ATM 設置 校友会カードの利用者増図る



中央図書館の入り口に ATM が設置される(5月13日、中央図書館で) = 小野憲司撮影

筑波大学附属中央図書館に三井住友銀行の現金自動受払機(ATM)を設置する計画が進んでいる。筑波大は4月から筑波大関係者が対象のクレジットカード「筑波大学校友会カード」の事業を開始したが、カードの利用には金融機関の口座が必要。ATM設置でカードの利用性を向上させ、利用者増加につなげるのがねらいだ。

ATMの設置場所は、中央図書館の石の広場側の入り口から入って右側。学生が訪れやすい、大学の中心付近を選んだ。設置時期は7月ごろを予定している。校友会カードは筑波大学に在籍する学生や卒業生、教職員などが利用可能。筑波大周辺の協力店舗でカードを利用または提示することで割引などの特典が受けられる。

協力店舗は、飲食店や美容院、ガソリンスタンド、不動産屋など約200店舗。化活動から環境問題を少しでも改善することで、学内外で清掃活動やゴミの分別など環境問題改善に向けたボランティア活動に取り組んでいる。

「エコレンジャー」の活動日に清掃などを行っている。活動への参加は自由で、構成員の和気あいあいとした雰囲気がある。だが、最近では設立は1997年。以来、現在の生命環境学群の学生を中心に活動していた。だが、最近では

で、事業開始前の1月時点で決まっていた50店舗から大幅に拡大した。今後も学生の要望を取り入れながら拡大していく予定だ。校友会カードは、在学生は各支援室に設置された用紙で、卒業生は筑波大学校友会のウェブサイトから資料を請求することで申し込める。6月30日までのカード入会費1000円分のギフトカードが送られるほか、5月29日までに三井住友銀行つくば支店で口座を開くと筑波大生に限りクオカード1000円分がもらえるという。事業を進める筑波大連携・渉外室の山田哲也室長は「多くの人にATMと併せてカードも利用してほしいと話した。」(添島香由)

セクマイ支援サークルの講座で知識広める。性的少数者(LGBT)と支援者のサークル「じひろ」による「LGBT基礎知識講座」が、4月15日に2B棟で行われた。LGBTとは、レズビアン(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)などの頭文字をとった言葉で、性的少数者を指す。「じひろ」は、誰もが心地よく過ごせるような大学の環境づくりを目指し、LGBTについての情報発信などを行っている。同講座では、男女どちらの性も恋愛対象になるバイセクシュアル、心と身体の性が一致しないトランス性(添島香由)

ジェンダーなど、多様な性のあり方をサークルのメンバーが説明。当事者たちがLGBTであることを感じて生活せざるを得ない現状や、LGBTであることと明かされた時の対応の仕方などを解説した。にじひろの副代表を務める学生は「LGBTに対して誤解や偏見を持つ人が多いため、正しい知識を広めたい」と思い企画した。来場者に「分かりやすい」と話してもらえて良かったと話した。

男子浴場脱衣室で盗難 鍵付きロッカーこじ開け

平砂共用棟男子浴場脱衣室で、筑波大生が、鍵付きロッカーに入れていた財布や携帯電話、部屋の鍵などの貴重品が3月下旬、入浴中に何者かに盗まれる事じ開けたとみられる。

学生生活課によると、事件の起きたのは3月21日午後7時30分から午後8時の間。入浴を終えた筑波大生が脱衣室に戻ると、貴重品を入れたロッカーの扉の左下部分が隆起しており、扉がこじ開けられていた。ロッカーの隅のすき間から金属の棒などを差し込み、こじ開けたものとみられ、中身がすべて盗まれていた。ロッカーは100円を入れたカギを締められるもので、使用後は現金が返却されるタイプだった。

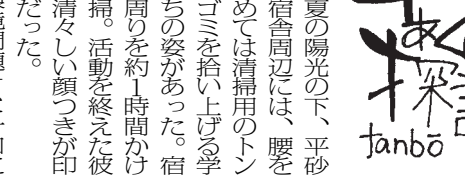
同浴場では鍵なしロッカーもあり、そこでの盗難は過去5年間に10件発生しているが、鍵付きでの盗難は初めて。同浴場によると、浴場は利用者が宿舎の住居者か、それ以外かは特に確認していないという。事件を受け学生生活課では脱衣室に事件の発生について記載した注意書きを掲示したが、同課は「脱衣室にはできるだけ貴重品を持っていかないでほしい」と話している。(栗山菜帆子、障害学系2年、写真も)



こじ開けられたロッカー(5月10日、平砂共用棟男子浴場脱衣室で)

学内環境を守る戦士

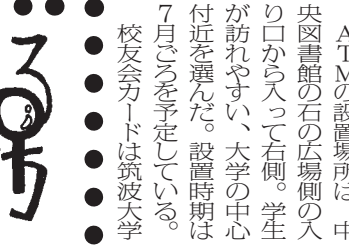
初夏の陽光の下、平砂学生宿舎周辺には、腰をかかめては清掃用のトンダでゴミを拾い上げる学生たちの姿があった。宿舎の周りを約1時間かけて清掃。活動を終えた彼らの清々しい顔つきが印象的だった。「環境問題」と一口に言う、地球規模の大きな課題を想像する人が多く、いかに知らないが、必ずしもそうではない。エコレンジャーの活動目的は「身近なところの美



学生宿舎前でゴミ収集にいそむ会員たち = エコレンジャー提供

設立は1997年。以来、現在の生命環境学群の学生を中心に活動していた。だが、最近では

活動日は清掃などを行っている。活動への参加は自由で、構成員の和気あいあいとした雰囲気がある。だが、最近では



活動は週2〜3回。週に1回のミーティングで活動内容を決め、その他

活動内容は、平砂・一の矢宿舎周辺の清掃が中心。また、ゴミの分別や回収にも力を入れている。ペットボトルの分別では、ボトルとキャップに分別しキャップを業者が回収してもらう。業者がキャップを再資源化した後販売して得た利益の一部が、海外に送るワクチン代となる。

Who's Who?

ウェブサイト「選挙公報.com」を運営

佐藤 昌哉 さん (社会学2年)



「選挙公報.com」のサイトを開く佐藤さん(4月24日、共同利用棟で)

学生中心のウェブサイト「選挙公報.com」の運営者の一人。選挙公報は選挙の際に各自治体の選挙管理委員会が発行する候補者の政策などを紹介した文書で、投票の判断材料となる。最近では選挙のサイトに掲載する取り組

みが進むが、通常、選挙が終わると削除されてしまうため、政治家が掲げた政策が実現したかどうかの検証が難しい。「選挙公報.com」の特徴は、過去の選挙公報も継続的に公開している

ことだ。政治家が公約を「言いっ放し」にするのを防いだり、公約を守れなかった際に、その理由を有権者に説明させるのが主な目的で、サイトの利用者からは「議員の活動を監視し、次の選挙で判断基準にできる」といった声が上がっている。活動のきっかけは、大学1年生の冬に参加した千葉県松戸市議会のインターンシップだ。それまで政治にはそれほど関心がなかったが、友人から同インターンを紹介され、「興味のないことにも楽しさを見いだせば、世界が広がるのでは」と思い参加を決意した。

過去の選挙公報を継続公開 ネットで若者と政治つなぐ

「若者など、政治に関心の薄い有権者は多い。彼らが政治に興味を持ちやすくなるのには、世の中が変わるのではないかと。そう考え、若者と政治をつなぐ手段としてインターネットに着目。すでに昨年9月、筑波大生らが「選挙公報.com」を立ち上げており、彼らに誘われる形でその運営に1月から参加した。

現在、各自治体の選挙のサイトから選挙公報を探し、「選挙公報.com」に載せるPDFファイルを作る作業を担当する。4月の統一地方選挙は、計約1000もの自治体で行われたため作業量は膨大だった。加えてウェブ上に選挙公報を載せるのはまだ一般的ではなく、掲載が遅かったり、載せない選挙もあったりと作業は難航。「授業や部活との両立に苦労した」と話す。だが同選挙をきっかけに活動は全国の注目を集めるようになった。朝日、毎日などの大手紙で取り上げられ、ツイッターでも反響が。特に印象的だったのは、ある政治家の「素晴らしい」

「公約が守れたかについて有権者と政治家との対話が生まれれば、双方の距離が縮まり、「政治がよくなるからいい」という世の中ではなくなる」「ウェブサイトで若者の政治離れを食い止める」という「公約」は実現されるのか、期待される。(深作歩美 生物資源学類2年、写真も)

編集後記

本紙編集部には今年が加わりました。今年の新入生は「脱ゆとり世代」「ゆとり世代」の私は、新入生よりもゆとりを持って学習してきたのかもしれませんが、しかしこの世代、懐にゆとりはあっても、「リーマンショック」の影響もあり、不景気な時代を生きています。消費税増税もあり、つらい毎日です。1面で学長が「授業料の値上げを検討している」と発言したと

次号は

7月13日(月)

発行予定です

応援部 WINS



宣揚歌「桐の葉」を披露する部員たち(4月23日、3A棟前で) = 廣岡里穂撮影

5面へ

関東大学選手権



巧みなドリブルで切り込む馬場雄大(5月10日、国立代々木競技場第二体育館で) = 大西美雨撮影

8面へ

つくばフェスティバル



子どもたちの医師の体験をサポートする学生たち(5月10日、大清水公園で) = 深作歩美撮影

10面へ

キッズ・ユニバーシティ



静電気の実験を行う子どもたち(4月18日、総合研究棟Aで) = 添島香苗撮影

10面へ

学芸

スポーツ

学生生活

学生生活